

一、傍線部を口語訳せよ。

1 蔵(くら)人(うど)の少将はなばなともの笑ひする人にて、笑ひ給ふことかぎりなし。(落窪物語)

〔

〕

二、空欄に断定の助動詞「なり」を活用させて入れよ。

1 月の都の人()て、父母あり。(竹取物語)

〔

〕

三、空欄に断定の助動詞「たり」を活用させて入れよ。

1 下(しも)として上(かみ)に逆(さか)ふること、あに人(じん)臣(しん)の礼()むや。(平家物語)

〔

〕

四、空欄に助動詞「ごとし」を活用させて入れよ。

1 春は藤波を見る。紫(し)雲(うん)の()して、西(さい)方(ほう)に匂ふ。(方丈記)

〔

〕

五、傍線部の助動詞の意味を次のア～エから選び、活用形も答えよ。

〈ア、断定 イ、存在 ウ、比況 エ、例示〉

1 松島(まつしま)は笑ふがごとく、象(きさ)鴻(がた)は恨(うら)むがごとし。(奥の細道)

〔

〕

2 父はなほ人(びと)にて、母なむ藤原なりける。(伊勢物語)

〔

〕

六、次の傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～エから選べ。

〈ア、四段動詞「なる」の連用形 イ、断定の助動詞 ウ、伝聞・推定の助動詞 エ、形容動詞の活用語尾〉

1 あはれなりしことどもなり。(平家物語)

〔

〕

2 年返りぬれど、世の中、今めかしきことなくしづかなり。(源氏物語)

〔

〕

七、次の傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～オから選べ。

〈ア、助詞 イ、副詞の一部 ウ、完了の助動詞「ぬ」の連用形 エ、断定の助動詞「なり」の連用形 オ、形容動詞の連用形活用語尾〉

1 変化の者にてはべりけむ身。(竹取物語)

〔

〕

八、次の傍線部の文法的説明として適当なものを、次のア～ウから選べ。

〈ア、断定の助動詞 イ、完了・存続の助動詞 ウ、形容動詞の活用語尾〉

1 北には青山峨々として、松吹く風索々たり。(平家物語)

〔

〕

1 一、
もの笑いをする人であつて

1 二、
に

1 三、
たら

1 四、
ごとく

2 1 五、
ア・連用形
ウ・連用形

2 1 六、
エ エ

1 七、
エ

1 八、
ウ